

低コストで効果的な獣害防止対策（斜め張り・L型ネット）  
及びドローンを活用したシカネット巡視の取組について

四国森林管理局 嶺北森林管理署

大豊森林事務所 森林官 吉本 和正

（元 安芸森林管理署）

安芸森林管理署 森林整備官 福山 敦之

### 1 課題を取り上げた背景

近年、安芸署管内においても野生鳥獣による造林地の植栽木の枝葉や樹皮が被食され、生長の阻害や枯死等が拡大傾向にあります。安芸署では、現在、獣害対策に垂直式シカネットを採用していますが、課題として「資材・設置コストが高い」「進入防止効果が低い」「メンテナンスに労力がかかる」などが上げられます。

このような中、当署で昨年度から、効率的な獣害対策等を検証するための方策として取り組んでいる L 型ネット（写真 1）について報告します。



写真 1 L 型ネット全景

### 2 取組の経過

シカネット方式の内、斜め張りは設置時に刈払幅が約 2.2m を要し、垂直式と比べ約 2 倍の刈払幅が増える為、従来の垂直式より設置するまでの工期は掛かり増しになるが、組み立て工期は斜め張りに優位性がありました。

また、縦断部に設置した箇所では、ネットの支持力が外側に働き、支柱に荷重が過度にかかっている状態なので、風等の影響を受けると一部支柱の根元が折れる箇所が見受けられました。

立木利用は、地形・立木等の配置に左右され、当初の計画より延長が長くなり、資材費及び設置に要する人工数が増加となりました。

これらの課題を踏まえ、署内で、さらに効果的・効率的な方法を含めて検討を重ねた結果、「L 型ネット」方式に辿りつきました。

### 3 実行結果

L 型ネット方式では、底部が確実に固定されているので、刈払いの幅も狭く施工出来るうえ、シカの潜り込みでの進入も困難と考えられます。

また、本体ネットも従来品よりもステンレスの編み込みを少なくし、軽く作成しており、設置も簡便なため、資材費・設置に要する人工数も減となりました。実際、設置した請負業者の方にも非常に好評でした。

昨年末には、L 型ネット方式を設置した現地で、自治体職員や請負事業者、局署等職員を対象とした現地検討会を開催し、多くの方々が参加する中、シカの侵入や L 型ネットの改善点等について意見交換等を実施しました。

### 4 考察

今回の「L 型ネット」の資材については、試作としてメーカーの協力により作製したものであるため、この規格が獣害対策の一つの手段として需要が確立されれば、さらなる低コスト化も可能とのメーカーより見解も得ました。

当署ではこの規格を事業に取り入れ、防除効果の検証を現在も実施中です。

併せて、四国局全署に配備されたドローン（写真 2）を活用したシカネット巡視、下刈等の跡地検査等の取組も進めています。



写真 2 ドローン